

巻頭言

麗澤大学学長 中山 理

今年度は、麗澤大学の創立者、廣池千九郎の生誕150年にあたる。さらに廣池が本学の前身である道徳科学専攻塾を設立したのが昭和10年（1935年）であったので、一昨年度の2015年には、すでに廣池学園創立80周年を迎えているわけである。このような二重の慶事が連続して重なるエポックメイキングな記念年に、本学の『紀要』が100巻を刊行する運びになったのを受け、本紀要を廣池千九郎博士生誕150年記念号として特集を組む運びとなった。本巻が二部構成になっているのもそのためで、前半では廣池千九郎に焦点をあてた特別寄稿、後半はそれ以外の専門分野からの論文、研究ノート、報告が収載されている。

創立者生誕150年を迎えるにあたり、そのような企画を立案した狙いの第一は、改めて本学の原点に立ち戻り、建学の理念を打ち立てた廣池の鬱勃たる思想を学問的に再評価することである。そして第二は、それと同時に現代において社会的責任を果たす高等教育機関として、第一の点をいかに学修、教育、研究の分野で展開していくかということに大学人として考察することである。

創立者の廣池は、慶応2年（1866年）に現在の大分県中津で生を受けた。そして昭和13年（1938年）に亡くなるまで、特に道徳・倫理の科学的研究とそれを基盤としての教育活動や社会啓蒙活動にその生涯を捧げた学者であった。そのような諸活動を通して廣池が掲げた目標は、たえずグローバルな視点を念頭に置き、世界の人々の安心、平和、幸福の実現を目指すことだった。

たとえば、昭和4年に認めた「モラロジー大学設立の理由書」では、「この計画はただ独り日本に止まらず。予は近く欧米を巡回し・・・その各自の国々に当該大学を設立すべきことを勧誘する」という遠大な計画が明らかにされている。それを裏付けるように、「大阪における産業および経済振興講演会の趣意書」でも「(廣池)博士は本書(『道徳科学の論文』)英訳の完成を持ち欧米を遊歴して、かの地の最高識者と共に現代世界人心の安定に関して謀議する所あらんとし、目下日夜その準備に努力いたしております」との記述

が見受けられる。しかし、昭和6年、新潟県の栃尾又で大患にかかったため、同年9月16日の『日記』に「今春、栃尾又にて大患の時、いのちあらば渡欧を止め・・・まず日本を開発し、つぎに外国に及ぶべしと誓えり」と記しているように、その計画を断念せざるをえなくなった。しかし、そのような誓いをたてたものの、廣池の存命中には、道徳・倫理の教育活動と学術的研究を通して海外の教育機関や識者と対話を行うことはかなわず、この誓いの実現は廣池の遺志を受け継ぐ私たちに託されたわけである。

本学では、大学レベルでの道徳倫理の研究と道徳教育の実質化を推進するため、2008年に「道徳科学教育センター」(Center for Moral Science and Education)を開設した。その目的は、前述したように、建学の精神である廣池千九郎の道徳思想とモラロジーを基礎とし、学内外を問わず、グローバルに道徳・倫理に関する教育・研究を行なうとともに、COC (Center of Community)として同分野での地域貢献にも努力することである。すでに海外ではアメリカ合衆国のボストン大学、ミズーリ大学、イギリスのバーミンガム大学、ベトナム国家大学ホーチミン市校人文社会科学大学などの高等教育機関と学術提携のMOU(了解覚書)を結び、道徳・倫理の研究、教育活動の分野で様々なコラボレーションを展開しているが、国内でも平成30年度に実施予定の道徳の教科化に伴い、大きな課題となっている教員養成に対し専門研究機関として貢献するために、道徳教育大学院を新規開設する計画である。

先ほど創立者は学者だと述べたが、それは人間廣池千九郎の一面しか捉えていないかもしれない。また廣池が創設したモラロジーも、諸科学を基礎とする総合人間学であるため、種々様々なアプローチが可能であろう。ちょうどイギリスのロマン派の詩人コルリッジが、文豪シェイクスピアを「万人のこころを持つ」(myriad-minded)と讃えたように、廣池とモラロジーの拓き出す学問的地平も無限の広がりを見せるに違いないことだろう。本紀要がその一助となることを祈念してやまない。